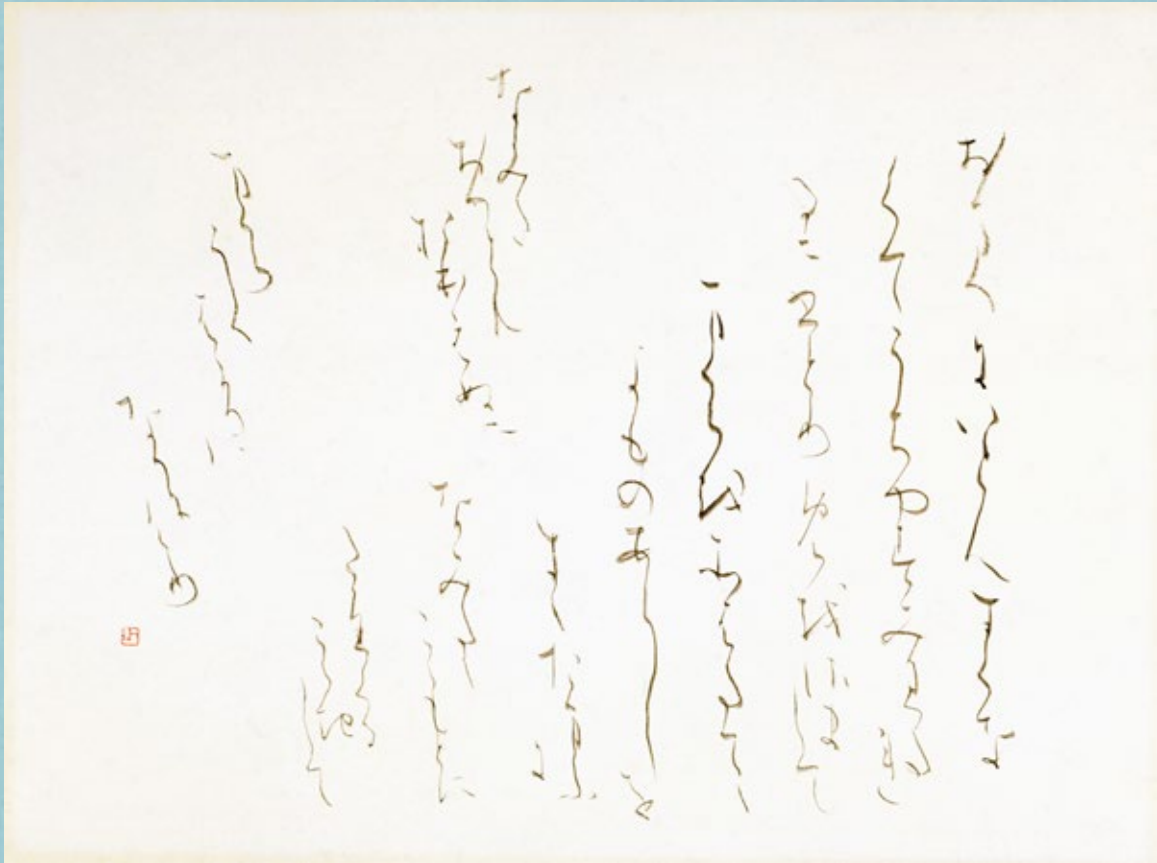


池上会館出張展覧会 熊谷恒子かなの美展

物語文学を中心に

恒子が愛用した書道具とともに



熊谷恒子《おまへにいと人（源氏物語）》1968年、大田区立熊谷恒子記念館所蔵

2023年5月20日(土) ~ 5月29日(月)

開場時間：9:00 ~ 16:30 (入場は16:00まで)

※5月20日(土)は14:00から開場、5月

29日(月)は14:00まで開場

入場料：無料

会場：池上会館 1階展示ホール

(大田区池上1-32-8)

アクセス：東急池上線池上駅 下車徒歩10分

JR大森駅西口 東急バス池上方面行

乗車「本門寺前」 下車徒歩7分

大田区立熊谷恒子記念館

Kumagai Tsuneko Memorial Museum

TEL:03-3772-0680 (大田区立龍子記念館内)

<https://www.ota-bunka.or.jp/kumagai>

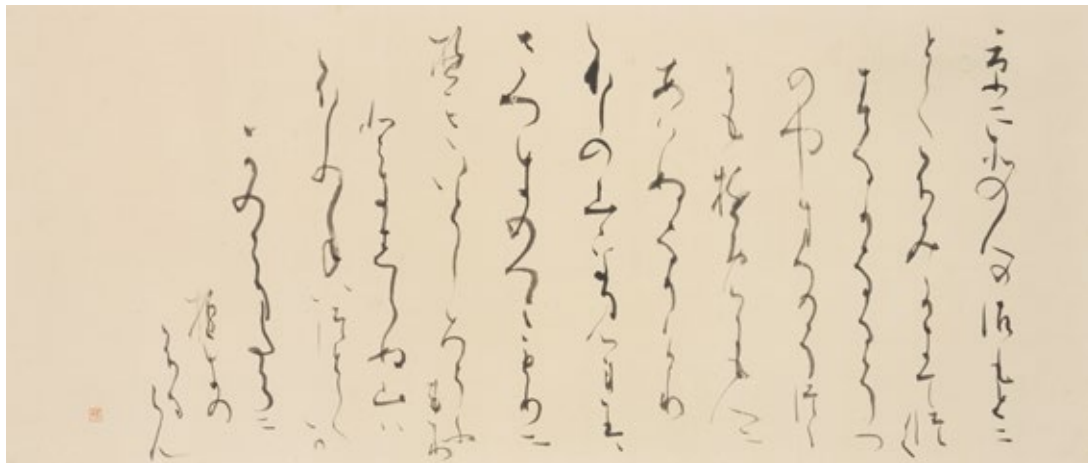


池上会館出張展覧会 熊谷恒子かなの美展 物語文学を中心に 恒子が愛用した書道具とともに

熊谷恒子記念館は、施設の改修工事のため休館に伴い、池上会館で出張展覧会を開催します。本展は、物語文学を中心に、書家・熊谷恒子（一八九三～一九八六）の額装作品とともに、普段使用していた書道具を展示し、書業を回顧する構成です。

在原業平（ありわらのなりひら）を主人公とした『伊勢物語』の《京にその人の》（一九六八年）や、貴族社会を描いた『源氏物語』の《おまへにいと人》（一九六八年）など、物語文学を題材とした恒子の作品を紹介いたします。『伊勢物語』や『源氏物語』は、平安時代に成立したかな書を発展させた物語文学です。その中でも、『源氏物語』の作者である紫式部（生没年不詳）は、平安時代に隆盛した藤原行成（九七二～一〇二八）の書を手本にかな書を習っていました。恒子も、行成が書いたと伝えられる「粘葉本和漢朗詠集（でつちようばんわかんろうえいしゅう）」や「関戸本古今和歌集（せきどばんこきんわかしゅう）」などを最初に学び、かな書を熟練しました。

物語文学を題材とした作品は、恒子によって様々な形態で表現されています。恒子は、それに合わせて筆や墨の種類を使い分けていました。物語文学を表現した書と、当館保管の書道具を紹介し、恒子がかな書を研究した功績を振り返ります。



熊谷恒子《京にその人の（伊勢物語）》1968年
大田区立熊谷恒子記念館所蔵

※藤原行成の書

藤原行成は、平安時代の「三跡」（書に優れた代表的な三人）の一人とされる能書です。熊谷恒子は、行成の書を「かなの範を示すものといえよう」と述べています。

【ギャラリートーク】

5月21日（日）、5月27日（土）、5月28日（日）
各日 11:00 および 13:00
各回定員 10名、事前申込制（先着順）です。
ギャラリートークの詳細及び申込方法については、当館ホームページ、または大田区立龍子記念館でご確認ください。

【今後の予定】

◆出張展覧会 熊谷恒子かなの美展Ⅱ
会期：12月13日（水）～12月17日（日）予定
会場：大田区民ホール・アプリコ（大田区蒲田5-37-3）

※詳細は、大田区報、情報誌「ART MENU」、当館ホームページ等に掲載します。
※日程・内容は変更される場合があります。予めご了承ください。

大田区立熊谷恒子記念館
Kumagai Tsuneko Memorial Museum

TEL:03-3772-0680

（大田区立龍子記念館内）

<https://www.ota-bunka.or.jp/kumagai>



えがくかなでるのびく
公益財団法人 大田区文化振興協会

【熊谷恒子記念館】（休館中）

熊谷恒子が生前に住んでいた自宅を改装し、1990年に開館した記念館です。

◆熊谷恒子のかな書

熊谷恒子は、1930年に書家・尾上柴舟（1876～1957）に師事し、伝藤原行成筆「粘葉本和漢朗詠集」（平安時代）を手本にかな書を習い、1931年に師・岡山高蔭（1866～1945）から晋・唐時代の漢字を学び、かな書を習得するため古筆の臨書に努めました。



熊谷恒子（79歳）1972年

◆書道具と筆塚

「筆、硯、紙、墨」の文房四宝の他に、文鎮や下敷、水滴、筆置きなど書道具にこだわりを持っていた熊谷恒子は、「筆の手入れをまめにしておく事は、一つのたしなみであろう」と述べ、使えなくなった筆を「庭の一隅を掘って埋める事にした、手頃の石を置いて筆塚として」供養し、最後まで書道具を大切に管理しました。



恒子愛用の書道具